

第1部

高齢者の自立支援って
なんだろう？



桑名市中央地域包括支援センター



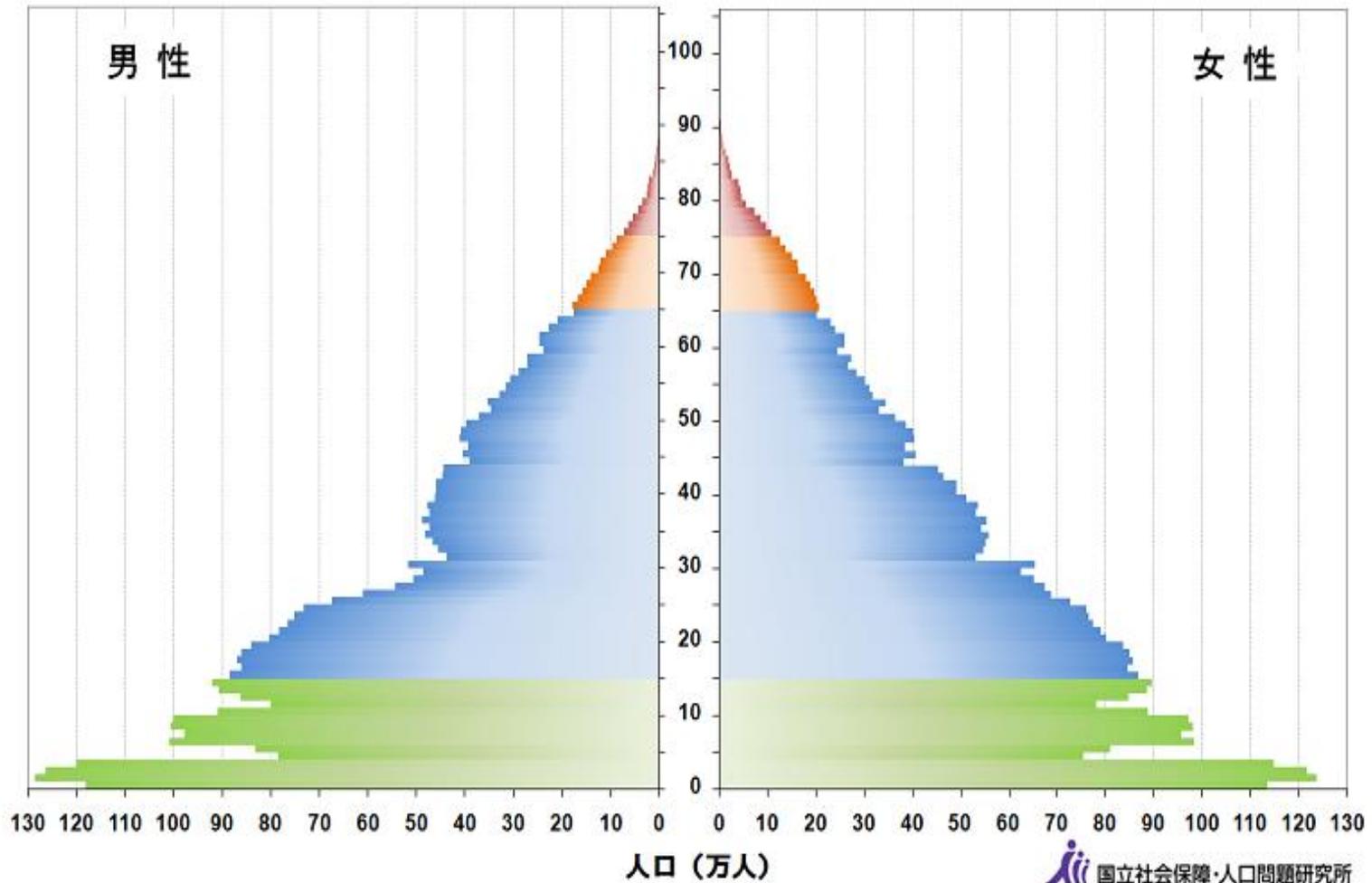
**なぜそんなに「自立、自立」と
言われているの？**

そもそも「自立」って？



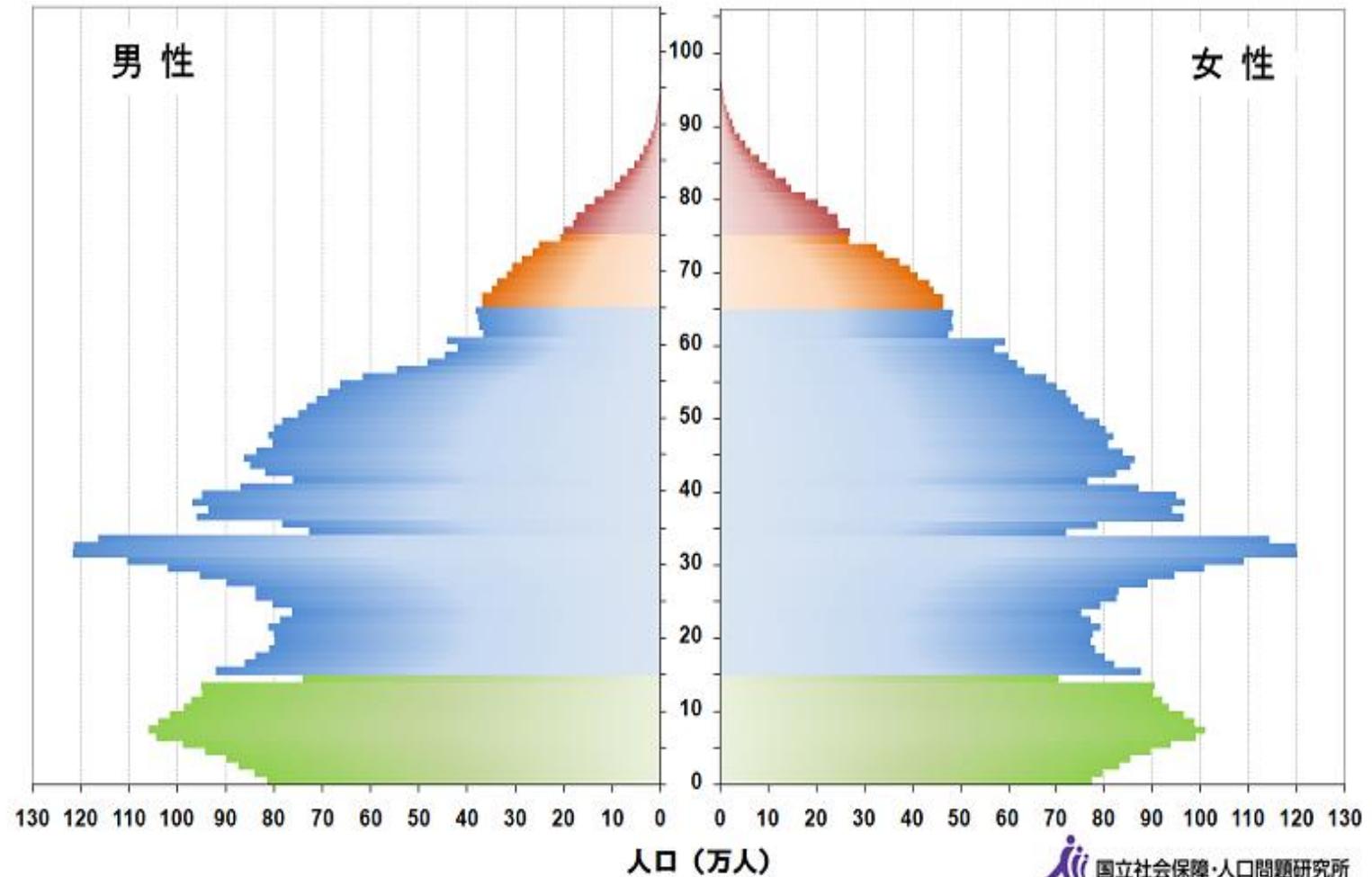
**高齢者の自立のために
介護の現場で出来ることは？**

1950年



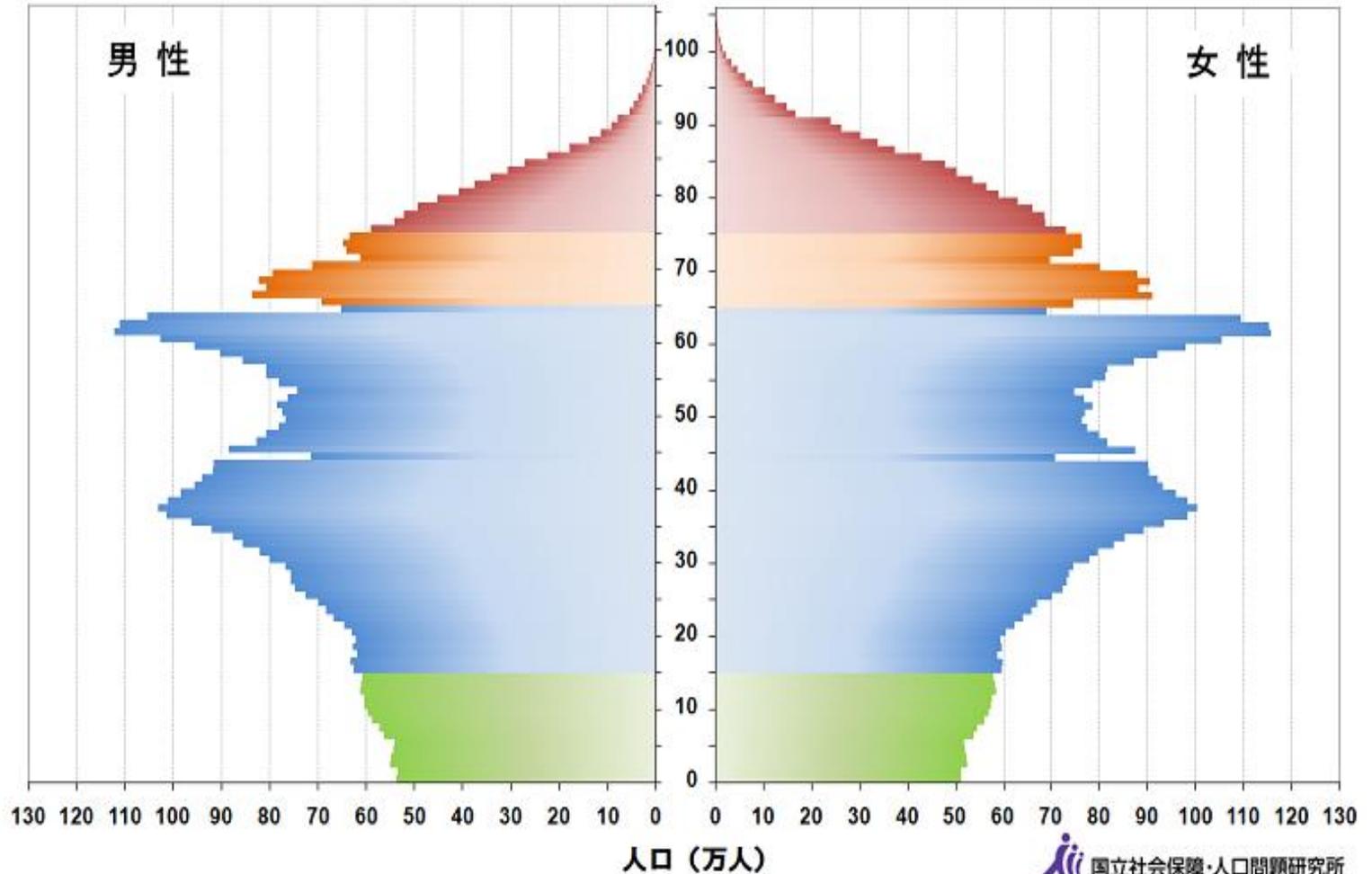
資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

1980年



資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

2010年



国立社会保障・人口問題研究所

資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

高齢化率 約40%

年少人口 約10%

2055年

男性

女性

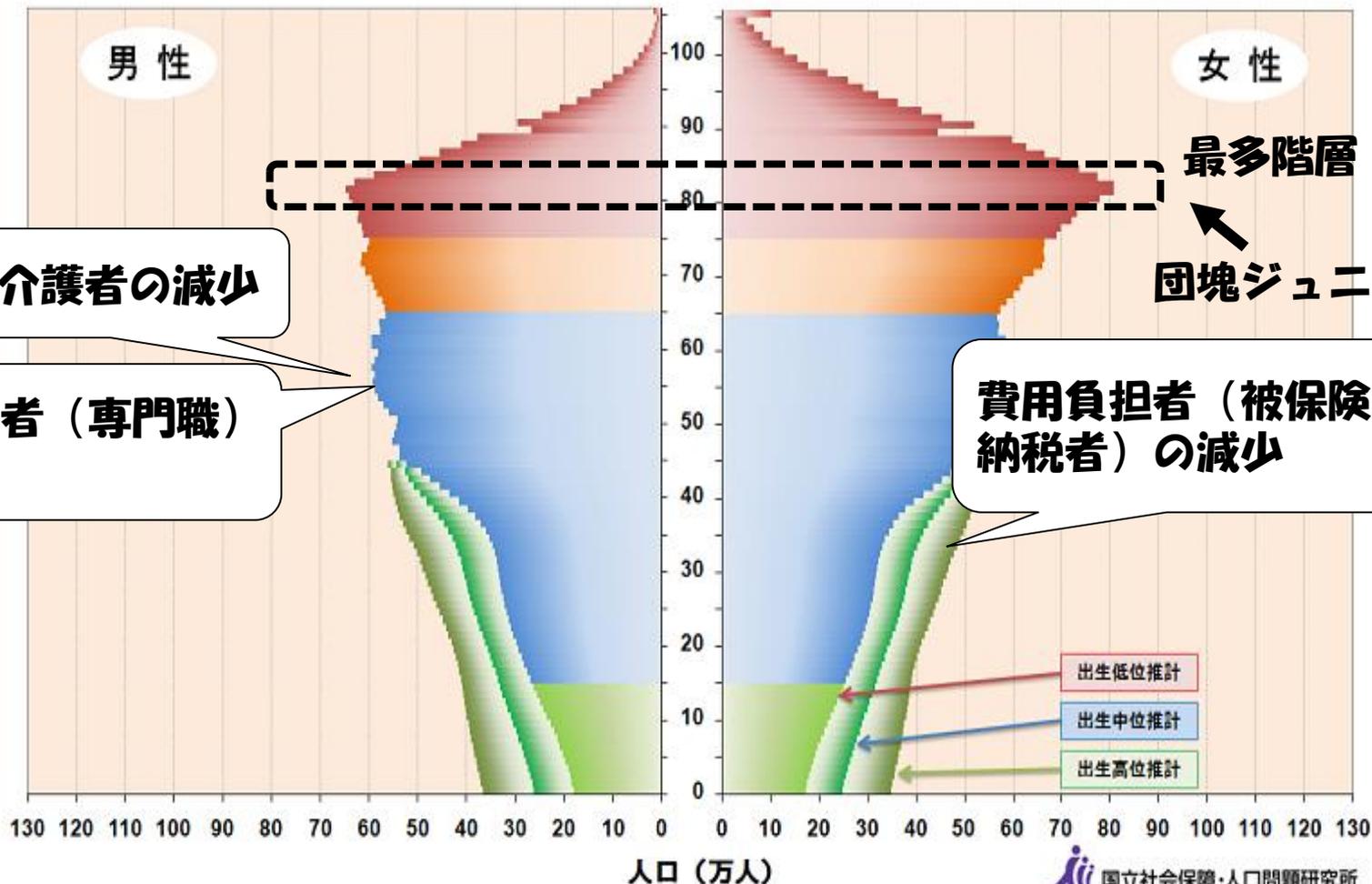
最多階層 81歳

団塊ジュニア

家族介護者の減少

介護従事者（専門職）の減少

費用負担者（被保険者・納税者）の減少

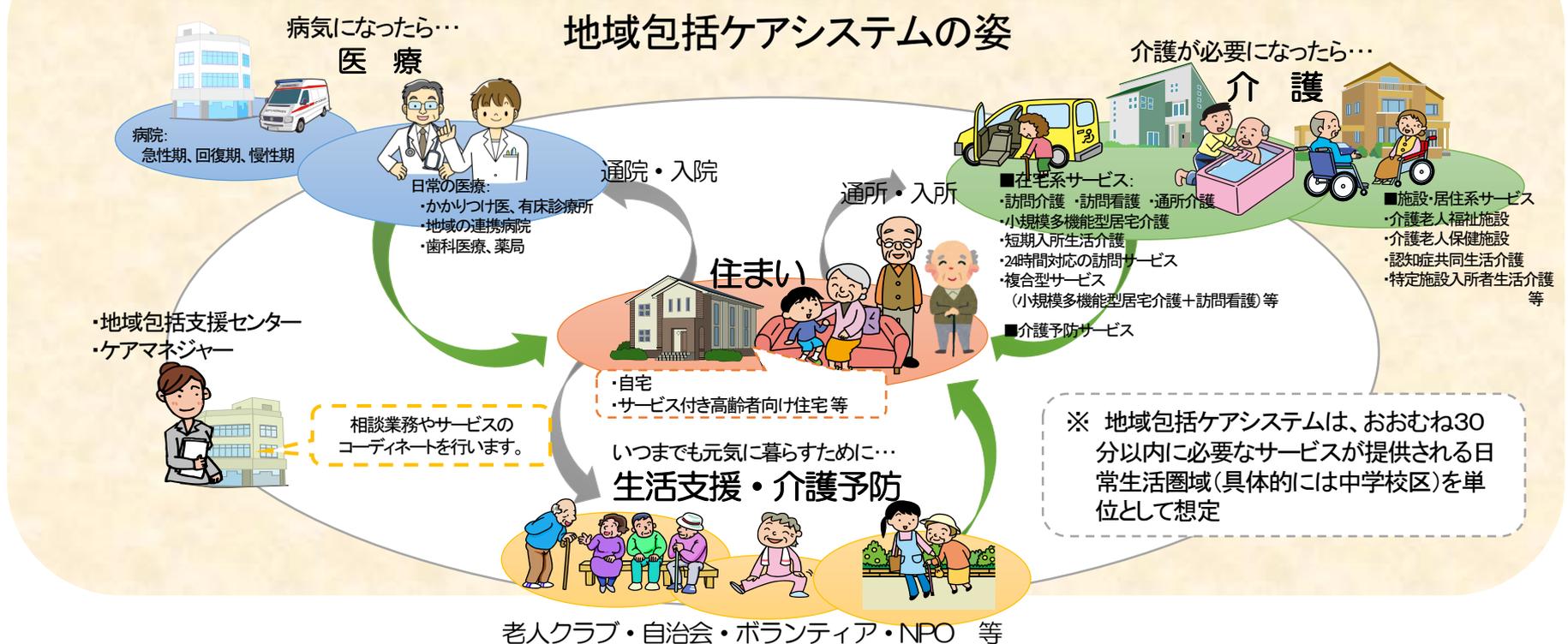


国立社会保障・人口問題研究所

資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

地域包括ケアシステムの構築について

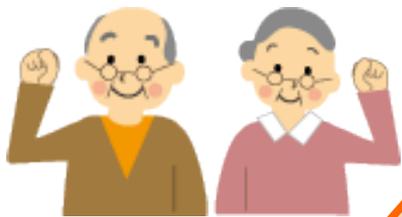
- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



「桑名市地域包括ケア計画」の基本理念

高齢者の尊厳保持・自立支援

(介護保険法第1条)



セルフマネジメント(「養生」)

健康の保持増進

(介護保険法第4条第1項)

能力の維持向上



介護予防に資するサービスの提供

(介護保険法第2条第2項及び第5条第3項)

在宅生活の限界点を高めるサービスの提供

(介護保険法第2条第4項及び第5条第3項)

一般高齢者

要支援者

要介護者

在宅サービス

施設サービス

身近な地域での多様な資源の「見える化」・創出

『介護予防・日常生活支援総合事業』
『生活支援体制整備事業』



多職種協働によるケアマネジメントの充実

『地域ケア会議』
『在宅医療・介護連携推進事業』
『認知症総合支援事業』



施設機能の地域展開

『従来の在宅サービスと異なる内容の新しい在宅サービス』



「していること」

と

「できること」

その人が
「できること」を
奪わない

ニーズとデマンド
(ニーズとウォンツ)

自立に向けた
「フロの介護」
ってなんだろう？

その人らしさや
その人の望む暮らし
を追及すること

「年だから無理」と
諦めないこと

自立支援のためのケア

ひとりで入浴できない

できない原因って
何だろう？

このままじゃ
清潔の保持が
できない！

左片麻痺でバランスが不安定だから
浴槽をまたげないんだ！

通所介護で
入浴する



通所介護で足を
持ち上げる動作を指導して
浴槽をまたげるようにする



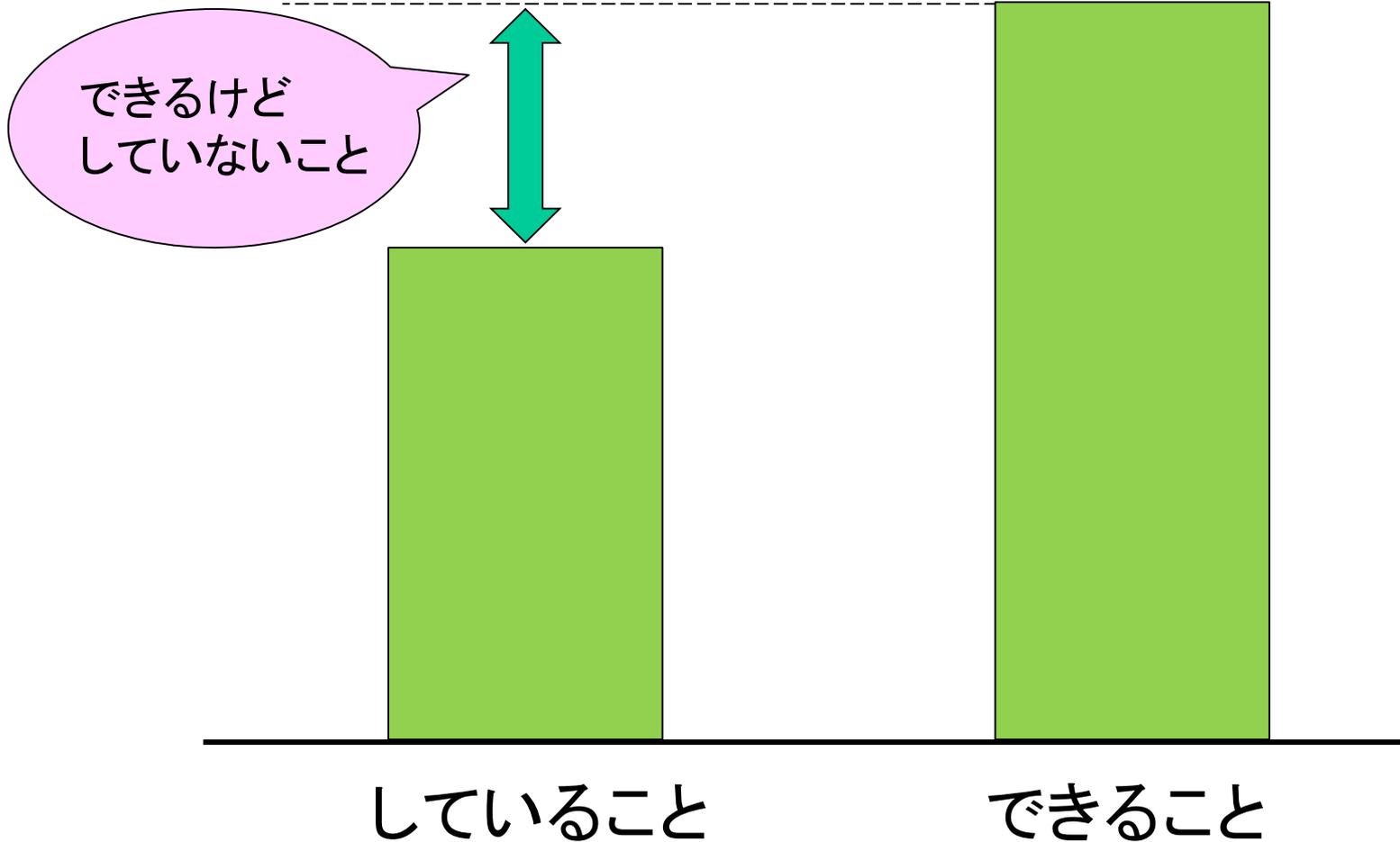
いつまでも
ひとりで入浴できない

独りで
入浴できるようになる

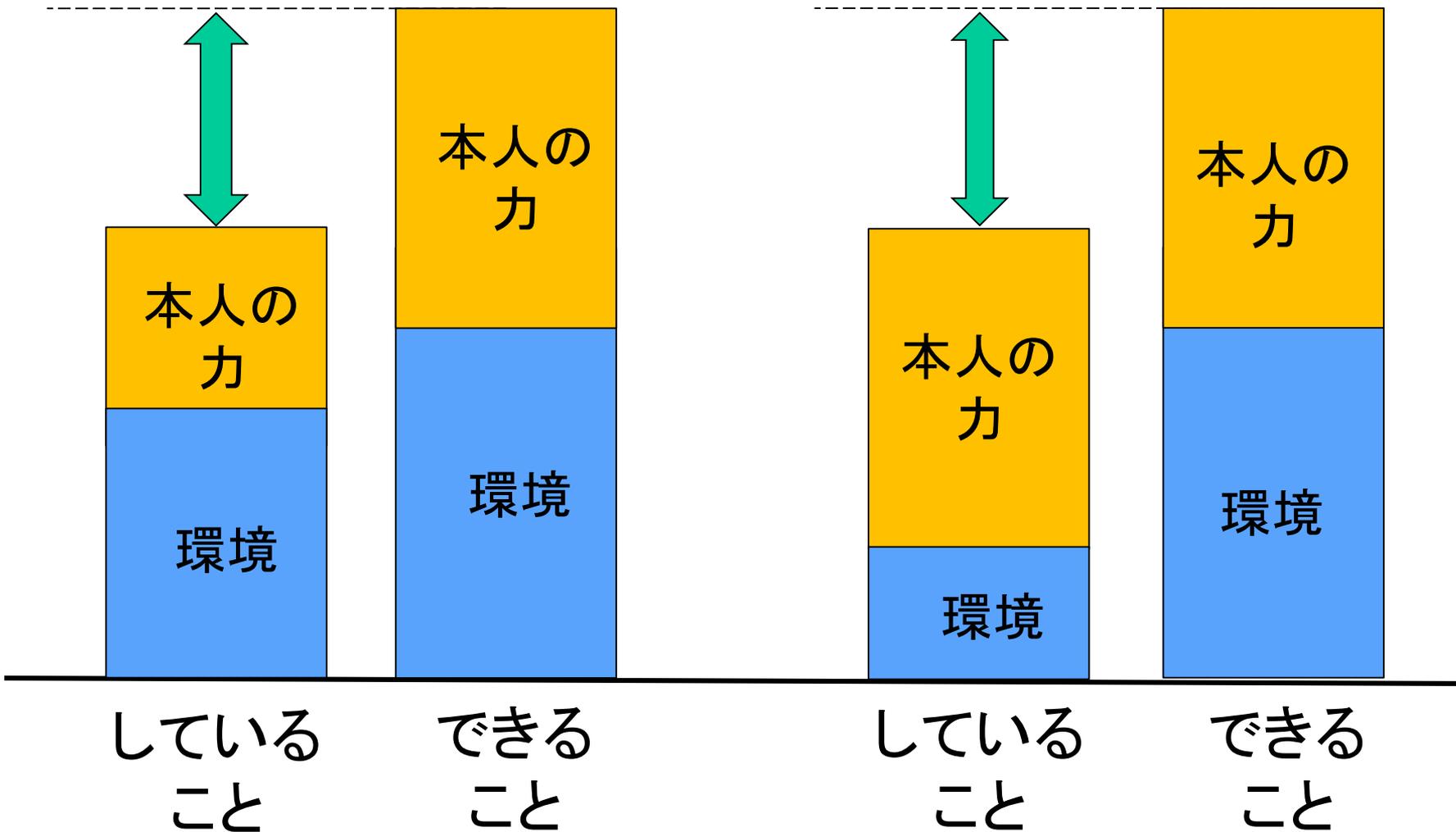
できないことを代わりにするケア

できないことをできるようにするケア

「していること」 ≠ 「できること」



「していること」 ≠ 「できること」



2013国際ゴールドマスターズ京都大会にて、 最高齢の103歳で力強い走りを見せる宮崎秀吉選手

明治43年生まれ

90歳を過ぎてからマスターズ陸上と出会う

2010年(100歳)に、100～104歳のクラスで100mを29秒83で走った。
(このクラスの世界記録)

砲丸投げは、100歳で3m83、
101歳で4m02を記録

2007年(97歳)には左足骨折で
3か月近く入院。車いす生活に。
だが、根気よくリハビリに努め、
再びフィールドに立つまでに。



宮崎さんの信条「継続こそが大切」

桑名の要介護・要支援認定率 (H27. 3. 31)

15.35 %



自立支援のための多様な資源

訪問

「サポーター」(地域住民)



高齢者サポーター、民生委員、食生活改善推進員、
シルバー人材センター、ボランティアグループ、民間事業者等

訪問介護
(専門職)

短期集中予防サービス
(専門職)



心身機能

通所介護
(専門職)

生活機能の向上

参加



高齢者

活動



参加



「通いの場」(地域住民)



高齢者サポーター、健康推進員、地区社会福祉協議会、
自治会、老人クラブ、ボランティアグループ、民間事業者等

通所

事例の紹介



Kさん 女性 昭和 5年生まれ(現在85歳)

- 平成X年9月まで、市内A地区で独居。近所の高齢者や民生委員との交流あり。畑仕事などもしていた。
- 平成X年9月～平成X+1年8月中旬まで、B地区にある次男夫婦と同居(マンション)。環境の変化と社会的交流もなく、うつ傾向になり、もの忘れも多くなってきた。
- 平成X+1年8月中旬からC地区にある長女宅(マンションの4階)で同居。孫やひ孫との交流もあり、洗濯をたたむという役割もでき、少しずつ元気になってきた。しかし、近所に知り合いは一人もいない。
- 平成X+1年9月に、要支援1と認定。『三八市(寺町商店街)にいく体力をつけ、懐かしい友人と会うことができる』を目標に、10月からデイサービスの利用を開始した。



担当包括の
職員

A地区
(独居)



B地区
(次男)



C地区
(長女)



家族



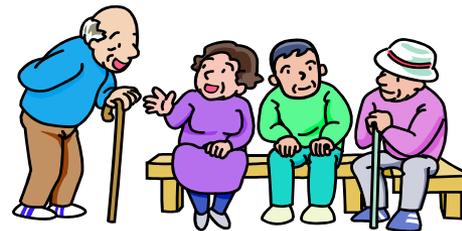
Kさん

デイサービス

近所の
スーパーで



ボランティアとして
デイサービスへ



宅老所



ご清聴ありがとうございました

